

理事に就任して

基礎地盤コンサルタンツ株式会社 東北支社長

久賀 真一



はじめに

令和5年10月に永川勝久の後任として、東北地質調査業協会の理事に就任しました基礎地盤コンサルタンツ株式会社の久賀真一です。

平成6年4月に入社してから25年過ごした広島を離れ、令和元年10月から東北地方の広さ・寒さに驚くとともに、食べ物・酒のおいしさに感謝しながら単身赴任生活を過ごしています。

地質調査業はインフラ整備、災害対応など社会に貢献する業界です。東北地質調査業協会の活動を通じて業界の発展・成長に寄与できるよう取り組んでまいります。よろしくお祈りします。

自己紹介

生まれは大阪府堺市ですが、両親はともに愛媛県育ち、祖父母も愛媛なので、私のルーツは愛媛県と考えています。親の転勤のため、小学校は栃木県で2つ、大阪府で1つ、中学校は大阪府で2つと転校が多く、友達づくりが大変だったことを思い出します。頭よりも体を動かすことが好きで、中学時代はサッカー部、高校時代はテニス部で汗を流しました。テニスは現在も続いている大事な趣味になっています。その後、愛媛県の大学を経て、当社に入社し、現在に至ります。



体形のわりにまあまあ動けます。

中国支社に配属になり、最初の冬に阪神・淡路大震災が発生し、現地パトロール業務に関わりました。被害の大きさに衝撃をうけるとともに、現場では傾倒している多くの建物を見て、平衡感覚がおかしくなったことを思い出します。それから6年間は地盤調査業務に従事しました。特に、複数の試験盛土の動態観測業務に係り、上司の叱咤激励を受けながら、観測結果と沈下予測結果、安定管理と円弧すべり計算結果の比較検証を夜な夜な行っていたことを思い出します。この時の経験が、のちの資格取得にも非常に役に立ちました。

次の3年間は、営業部技術営業室に配置替えとなり、トンネル点検や橋梁点検などの見積作成とともに、コンクリート構造物の浮きや剥離を検出する赤外線カメラを用いた調査を行っていました。赤外線カメラの使い方を覚えるために、夜中に自宅で寝静まった子供の顔を撮影して遊んでいたことを思い出します。

その後、道路系の財団法人に3年間出向して、社内とは異なる雰囲気の中、同業他社の先輩（出向者）の皆様にかわいがっていただきました。ここでは、主に道路の維持管理（道路清掃、凍結防止剤散布、のり面の除草）の効率化検討業務や道路防災診断業務に係りました。前者は当社では絶対に係ることのない思い出の業務となりました。後者は、出向解除となった後も含め、13年間にわたり関わることとなった思い入れの強い業務となりました。それまでは平地の地盤調査が主であったため、斜面・のり面などの点検業務は新鮮であったうえに、中国地方の有識者との現地調査は非常に勉強になりました。

出向解除後は、技術営業室を経て技術部署に戻り地盤関連業務に従事し、令和元年に東北支社へ異動となり現在に至っています。

仙台では、統括業務のほか特徴的なものとして、洋上風力関連業務に関わっています。これまでのボーリング調査の仮設足場よりも規模が大きな鋼製檣を用いた海上のボーリングで、初めて檣に上がった際は足がすくみました。



鋼製檣（船をつけて梯子で作業ステージにあがります）

東北に来るまでは、東北は縁もゆかりもない土地で、テレビでしか見ることのない場所でした。せっかく仙台に来たので、時々旅行に行っています。最初の旅行は、居酒屋の常連の方に教えていただいた鳴子温泉および鳴子峡で、良いお湯と紅葉を堪能しました。宿の温泉には、シャワーや蛇口がなく、壁からかけ流しの温泉が出ているだけで、個人的に衝撃を受けました。蔵王のお釜に行った際は、それまで曇っていた空が、ちょうどお釜が見える場所についたときに晴れ間があらわれ、きれいな景色を眺めることができました。その他、猪苗代湖、十和田湖、田沢湖、角館の武家屋敷、恐山（三途の川）、浄土ヶ浜、龍泉洞などの有名どころ？ も一通り観光できました。

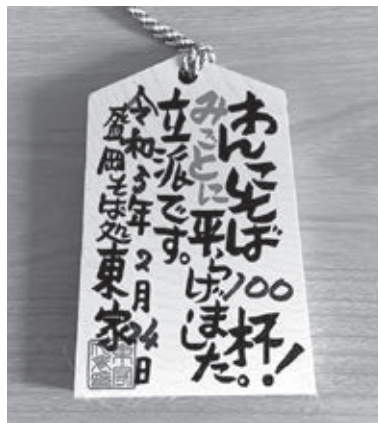


蔵王のお釜



三途の川（恐山）

牛たん、牡蠣、セリ鍋、わかめ、貝焼き味噌、各種ラーメン、魚介類など、おいしい食べ物が多い東北ですが、最も印象深いものはやはりわんこそばです。そばだけを果てしなく食べるものと思っていたので、薬味の種類の多さに驚きました。最初は、積みあがっていくお椀の高さに喜びながら食べていましたが、60杯を超えるあたりからお給仕さんのプレッシャーを感じ、95杯を超えるとそれが励ましに感じ、何とか100杯を達成できました。



わんこそばの証明手形

おわりに

これまで、家族、友人、社内関係者、業界関係者、発注者など多くの方々に助けていただきながら楽しく仕事をさせていただいています。また、非常に人に恵まれていると感じています。地質調査業に係る者として、これまで（これからも）お世話になってきた方々への恩恵は、地質調査業を通じた社会貢献で返していければと考えています。東北地質調査業協会の理事として、活動することもその一端と感じています。微力ながら尽力してまいりますので、よろしく願いいたします。